

闡提、嗚呼、憑哉快哉、我等有聞信之功德者、長夜將曉、有結緣之善根者、苦海當渡矣、依之每迎今月
今日、開演四座法筵、泣戀雙林入滅之昔、懸忍現在遺跡之德、且爲懲滅後孤露之悲歎、且爲成當來
值遇之大願也、開一々旨趣在後々講席、當座是開白涅槃之初度也、於中立^三入滅茶毗涅槃因緣雙
林遺跡發願廻向五門、粗顯戀慕悲歎之旨矣、

〔御湯殿の上の日記〕慶長三年二月十五日、けふはねはん、いつものごとく御みまにかゝりて、かち
ん、みやかしまいる、御ほうもつ十^{梅物}う、玄^塔からたん、ちんかう文ばこいづる、玄ゆごう、女御、女中
より御ほうもつまいる、三位^のよりも御ほうもつまいる、ないくの御はん玄ゆすへの玄ゆ
も、いつものごとく御ほうもつかけまいらする、御所々々、わかみやの御かた、女二の宮の御かた、
女三の宮の御かたも、御ほうもつかせらる、夕かた御くちとりあり、御所様御ほうもつ、玄
ん大きけ御くち御とりあり、ちおん院より御ちやのこの折まいる、どうさいしやうたね丸げん
ぶくにつきて、御かぶり申いださる、玄んないしどのより、御ひつしまいる、はんしゆるんへ上、
わたくしより御ほうもつまいる、

諸寺涅槃會

〔今昔物語十一〕於山階寺行涅槃會語第六

今昔、山階寺ニ涅槃會ト云フ、會有リ、此レハ二月十五日ハ、釋迦如來涅槃ニ入給ヒシ日也、然レバ
彼ノ寺ノ僧等、昔ノ沙羅林ノ儀式ヲ思フニ、心无キ草木ソラ、皆其ヲ知テ戀慕ノ形チ有キ、何況ヤ、
心有悟リ有ラム人ハ、釋迦大師ノ恩徳ヲ報ジ可奉シト、儀シ思テ、彼ノ寺ノ佛ハ、釋迦如來ニ在セ
バ、其ノ御前ニシテ、彼ノ二月ノ十五日ニ、一日ノ法會ヲ行フ也ケリ。○中略 尾張ノ國ノ書生ナル者
有リケリ、國司ノ政ノ枉レル事ヲ見テ、心ヲ佛法ニ係テ、頭ヲ剃テ本國ヲ去ナムト思ケル間、山階
寺ノ僧善殊僧正ト云フ人、請ヲ得テ、彼ノ國ニ至ルニ、此ノ書生大意有ルニ依テ、彼ノ僧正ニ伴ヒ
テ、本國ヲ棄テ、山階寺ニ行テ、頭ヲ剃リ、衣ヲ染テ、彼ノ僧正ノ弟子ト成ヌ、名ヲ壽廣ト云フ。○中略 此